「ガイダンス　線形代数」正誤表

初刷の正誤表 （2022 年 7 月 27 日）

頁	場所	誤	正
p4	例題 1.1　2 行目	$\theta = \angle \mathrm{POQ}$	$\theta = \angle \mathrm{QOP}$
p4	例題 1.1 の解答のすぐあと	$\angle$POQ というとき，OQ から OP に向かい	$\angle$QOP というとき，OP から OQ に向かい
p36	14 行目	順に 3 次基本ベクトル $\boldsymbol{e}_1$, $\boldsymbol{e}_2$, $\boldsymbol{e}_3$ に一致する	順に 3 次基本ベクトル $\boldsymbol{e}_1$, $\boldsymbol{e}_2$, $\boldsymbol{e}_3$ になる
p86	定義 4.2 のすぐあと	n^2 次（斉次）多項式	n 次（斉次）多項式
p97	定理 4.23 のすぐあと	クラメールの公式と呼ぶ．	クラメールの公式（G. Cramer（スイス　数学者，1704–1752）による）と呼ぶ．
p115	下から 3 行目	$\boldsymbol{w} = {}^t[1, 1, 1-, 2]$	$\boldsymbol{w} = {}^t[1, 1, 1, -2]$
p121	脚注 5)　 1 行目	この不等式を $-\|\|\boldsymbol{x}\|\| \cdot \|\|\boldsymbol{y}\|\| \leqq (\boldsymbol{x}, \boldsymbol{y}) \leqq \|\|\boldsymbol{x}\|\| \cdot \|\|\boldsymbol{y}\|\|$ と表すこともできる．	削除
p122	注意 6.6　5 行目	2 辺の長さの和が他の 1 辺の長さを超えない	1 辺の長さが他の 2 辺の長さの和を超えない
p129	問 6.22 のすぐ前	正規行列にはどのようなものあるか	正規行列にはどのようなものがあるか
p146	命題 7.10 の 3 行上	この $\widetilde{P}$ は対称行列ではない	この $\widetilde{P}$ は直交行列ではない
p151	式 (7.19)	$a_1x^2 + a_2y^2 + a_3z^2$	$a_1x^2 + a_2y^2 + a_3z^2$ $+2f_{12}xy + 2f_{23}yz + 2f_{31}zx$
p153	グレーの網かけ (I)–(VI) の下 4 行目	$x'y'$-平面上の直線 $2\delta y' + 2\eta z' = 0$	$y'z'$-平面上の直線 $2\delta y' + 2\eta z' = 0$
p153	グレーの網かけ (I)–(VI) の下 7 行目	与えれらた 2 次曲面のどんな図形かを知るのに	与えられた 2 次曲面がどんな図形かを知るのに
p153	グレーの網かけ (I)–(VI) の下 12 行目	結論として，与えれらた 2 次曲面の図形は	結論として，与えられた 2 次曲面の図形は
p158	リード　4 行目	従ってこれが最も簡単な形なのである	従ってこれがこの方法で得られる「最も簡単な形」なのである
p160	下から 7 行目	A は対角可能	A は対角化可能
p166	下から 3 行目	$\boldsymbol{v}_1, \boldsymbol{w} \in W_{-1}^{(0)} \,(= V_{-1})$	$\boldsymbol{v}_1, \boldsymbol{w} \in W_{-1}^{(1)} \,(= V_{-1})$
p168	3 行目	(2) 各固有値の α に対し	(2) 各固有値 α に対し
p169	下から 2 行目	前の行「ある $s > 0$ に対し」に続いて，等式 $W_0^{(s)} = \mathbb{C}^n$ から始まるディスプレイ	ディスプレイにせず，地の文として前に続ける

頁	場所	誤	正
p170	定理 8.16（ジョルダン分解）の冒頭	正方行列 A は，互いに可換な対角行列 S とベキ零行列 N	正方行列 A は，互いに可換である，対角化可能な行列 S とベキ零行列 N
p170	定理 8.16（ジョルダン分解）の 4 行目	S と N が可換とは	ここで，S と N が可換であるとは
p171	問 8.18　(2) の冒頭	A が，互いに可換な対角行列 S とベキ零行列 N	A が，互いに可換である，対角化可能な行列 S とベキ零行列 N
p177	注意 9.9　3 行目	(B2) によりそのスカラー 0 による乗法 $0w$ は	(B3) によりそのスカラー 0 による乗法 $0w$ は
p185	式 (9.3) の左辺	$[f(v_i)\ f(v_2)\ \cdots\ f(v_n)]$	$[f(v_1)\ f(v_2)\ \cdots\ f(v_n)]$
p186	例題 9.32 の解答 6 行目の等式および式 (9.6) の左辺	$[f(v_i)\ f(v_2)\ \cdots\ f(v_n)]$	$[f(v_1)\ f(v_2)\ \cdots\ f(v_n)]$
目　次 p187	9.4 節見出し	商空間と同形定理	商空間と同型定理
p187	下から 2 行目	V の元全体 $v+W$ で表す	V の元全体を $v+W$ で表す
p188	注意 9.35	先に V/W は V において「W の元をすべて零元と見なしてできる」と言ったのは上記の (2) による	先に，V/W は V において「W の元をすべて零元と見なしてできる」と言ったのは，上記の (2) による
p189	注意 9.38　4 行目	相対的関係より鮮明に	相対的関係をより鮮明に
p190	注意 9.40　1 行目	$\tilde{f}$ の像を Z のままにして	$\tilde{f}$ の値域を Z のままにして